■■■　理事からの新年の挨拶　■■■

あけましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

セヘポックマ～ニパドゥセヨ。（新年たくさんの福をうけとってください）

ＫＦＣの２０１２年は、ＮＧＯが施設（グループホーム）を建てるというチャレンジを実現した年でありました。そのためのきびしい谷、山を越え、たくさんの仲間を迎え新しい年を迎えられたことうれしく思っています。

　信頼が薄れていく世相では、弱者への強い言葉や異質なものへの排他的な力が尊ばれ、他者を思いやる力が弱くなります。昨年末、呼ばれた講演先に在日コリアンの講演を中止しろというＦＡＸがたくさん寄せられました。社会の不安が育てたことのように思えます。

　たやすいことではないですが、人がやさしく生きていくためには信頼できることがひとつでも増えていくことかと考えます。ＫＦＣが人に信頼されやさしく生きたいと願う力になれるよう力を尽くしたいと思います。　（理事長　金 宣 吉）

セヘポックマ～ニパドゥセヨ。

　ＫＦＣのみなさん、新年明けましておめでとうございます。

　昨年はＫＦＣにとって本当に忙しい年でした。

神戸に定住している外国人の人権や生活に係わる多様なニーズに少しでも答えられるような事業を展開してきたと思います。

ふと気が付けば、社会的にハンディを抱えるマイノリティなどに対し、とんでもない厳しい状況が生まれています。しかし今年一年、気を引き締めながらも、元気に明るく共に進んでいきましょう。（李 圭 燮）

　長期にわたる世界的な不況のなか、人々の心のなかに閉そく感や不安がうずまき、

余裕のない社会のなかで、社会的弱者である、子どもたちやお年寄り、マイノリティの人々の人権の侵害が危惧されます。こういう時代にこそ、思いやりや助け合いが必要だと思うのですが、否定的な歴史が多い現状のなか、人々の心に優しさやお互いを思いやる気持ちを持ち続ける事を願いたいと思います。　(金 東 吉)

皆さま、明けましておめでとうございます。

2012年は改めて「教育」って何？と考えさせられ、原点を思い出す年でした。私にとっては、世界と自分の関係性を知り、語れるようになること。そのことで、非人間的な関係性を変えていけるようになることでした。対象が誰であろうと。今年はもう一歩前へ！（願望）（野崎 志帆）

「自国が最盛期だった時代を忘れられず、その時代の構造からの変化に目をつぶってきた」（小熊英二『平成史』）時代。2013年はそんな国民感情と現実のギャップがますます広がってゆく一年だと思います。我々は戦後システムの延長上にではなく、すでに「戦前」に生きています。今私たちに必要なことは、遠からずやってくる（もう始まっている）地殻変動をより良い方向に乗り切っていくための準備を充実させることだと思います。今年もよろしくお願い申し上げます。（樋口 大祐）

昨年は７月にグループホーム「ハナ」の開設があり、さらなる事業拡大がありました。それに伴い、運営の責任の重大性も増しています。今年も定住外国人の権利擁護のために、ＫＦＣの活動に貢献できるようがんばります。今年もよろしくお願いします。　（吉井 正明）

■■■ＫＦＣ日本語プロジェクト■■■

◆「生活日本語ファシリテーター養成講座」を終えて

「生活日本語ファシリテーター養成講座」を11月17日(土)から全5回にわたり開講いたしました。定員を超える応募があり、日本語プロジェクトとして幸先の良いスタートとなりました。
受講者の方は日本語学校経験者や地域日本語教室経験者など現場で長く活動されている方々ばかりで、第1回目のグループワークでは文法積み上げの課題点など多くの意見が出ました。課題点を共有した後に、現在KFCが取り組んでいる「生活日本語」について説明をしました。
そして第2回目には、実際に受講者の方々にテキストを作成してもらうための前作業として「生活日本語研究会」を行いました。私達が日常生活における言動を振り返ることで、テキストにどんな語彙やフレーズを入れるべきか判断するため、毎回行っていたものです。細かく場面設定をした方が意見が出やすいテーマと、時系列に沿って意見を出した方がまとめやすいテーマがあり、受講者の方々はそれぞれグループごとにテーマを決めて意見を出し合い、テキスト作成へと作業を進めていました。
生活日本語とテキスト作成に関する内容を終えて、第3回目はKFCで取り組んでいる新しいクラス形態「FSGクラス」について説明しました。「FSG」とは「F＝ファシリテーター　S＝支援者　G＝学習者」の略で、講師やボランティアが一方的に教えるのではなく、クラスの進行を担うファシリテーターと支援者が協力して学習者の日本語支援を行う新しいクラス形態です。実際に、新長田クラスの様子をビデオで見てもらいながら、ファシリテーターがクラスでどのような役割を担っているのか説明しました。
そして第4回目に各グループがそれぞれ作成したテキストを使用してFSGクラスを再現して実際に模擬授業を行いました。模擬授業を終えた受講者の方々からは「FとSの関係性がよくわからない」「Fはどこまでを担当するべきかわからない」という意見が多数出たため、第5回目に現在私達が授業で使用しているタイムスケジュールを配布して、どのように授業を進めているか具体例を挙げながら説明しました。
　全5回を終えて受講者の方から次のようなご意見を頂きました。「文法を学習して自分の意思を伝えられるのが理想だが、タスク型というまた違った方法で日本語を学習することで体当たりで今持っている能力で事態の打開を図る勇気に繋がればと思った」「学習者が本当に望んでいること、必要なことをすぐに実現できるのが生活日本語だと思う」「文法ありきの教え方の脱却を目指すには、まず生活日本語クラスのように文法説明なしという極端なやり方もいいと思った」「文法説明をしない、語彙コントロールをしない等、受講当初は適当で曖昧なイメージを持ったが、そこをあえて割り切った授業をすることで、学習者の選択が増えて本当にネイティブの日本人会話に触れられるいい機会だと思った」という意見がある一方で「ファシリテーターは先生よりも難しい」「ファシリテーターは準備にあまりにも時間がかかるため、ボランティアペースで長く続けるのは困難だ」「生活日本語としての場面設定や、そこで使用するフレーズは多岐に渡るため、モデル会話の設定が難しい」「教える―教わるという関係ではないと説明を受けたが、クラスでの支援側メンバーの配置を見ると、まだまだ教える側と教わる側という関係にあると思う」という意見もありました。さまざまなご意見を頂き、私達も実際の現場で活かしていきたいと思います。

FSGクラスを始めた当初は、自分自身も教師とファシリテーターの違いが掴めず、どうやって支援者の方に協力してもらえばいいか戸惑うこともありましたが、現在は支援者の方にもご理解・ご協力頂き1タームを終了した後も継続して生活日本語クラスを開講しています。私自身、FSGクラスの最大の利点は「FSG」という形態を取っているからこそ出てくる学習者からの意見、支援者からの意見を聞くことができ、学習者だけではなく支援者やファシリテーターにも毎回「学び」があることだと感じています。また、その意見をどう生かすか、それがファシリテーターの難しさでもあり面白さでもあります。

まだまだ課題もありますが、一人でも多くの方にご賛同頂き、学習者の方々が学習しやすいクラスを作っていきたいと思っております。受講者の皆様、全5回本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

（中野　みゆき）

◆お弁当ミーティングの報告

１２月５日（水曜日）お弁当ミーティングがありました。

参加者は６名、最近、参加する人数が減っていますが、有意義な集まりだと思いますので、続けていきたいものです。

今回は、先月、話題になっていた「学習者のバックグラウンドはどうなっているのだろう？」「入管法が変わったと聞くが、どのように？」という問題を、奥さんが受講された「外国人市民生活相談員のための研修会」から話していただきました。移民として一人で日本に来た外国人が日本での生活を経験して、人生を終えるまでに出会ういろいろな事項（例えば、転入、就職、婚姻、妊娠、出産、子育て、医療、離婚、帰化、永住、年金など）を取り上げて、相談できる役所や手続きの方法などを紹介する講座だったそうです。その資料は事務所に置かれていますので、必要な時に閲覧することができます。

ボランティア支援ですが、知識として知っておくと相談された時に役に立つのではないか、ということでした。

あと、日本語アドバイザーについて、とか、現在の支援状況を話し合いました。

情報を交換し、共有し、皆の話を聞き、問題を相談できる場所になっています。自分の支援活動を再確認し、ブラッシュアップにも繋がると思います。ご参加をお待ちしています。

次回は、1月30日(水)12時15分から、5階教室に於いてです。（谷先 晴代）

■■■ＫＦＣ外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■

◆ＣＡＰ（ｷｬｯﾌﾟ＝子どもへの暴力防止）地域、保護者、子ども向けワークショップを終えて

11月8日（木）CAP(子どもを暴力から守るワークショップ)の地域編、12月16日(日)保護者編を実施しました。

地域編、保護者編とも基本的な内容は支援者編と同じでした。地域編では、「内なる活性化というエンパワメントの人権意識や権利というような難しい言葉を子どもにも分かりやすく伝える方法がとても勉強になった」、「親としても職業人としても改めて勉強になりました」という感想をいただきました。

保護者編では、ベトナム人、フィリピン人、日本人等の保護者が参加してくださいました。＆ﾛ護者編では通訳や翻訳資料を準備し、実施しました。保護者からは、「子どもとの関わり方を見直すきっかけとなった」、「今日は自分の身と自分の子どもを守ることを勉強し、特に権利について勉強になりました。安心や自信、自由などの意味がしっかり分かりました」、「子どもの話を聞くのは、時間もタイミングも必要で、ゆったりした時ではないとなかなか心を開いてくれ

ないので難しいですが、話を聞くところから、そして受け入れて、子どもを信じてあげることから、少しずつやっていきたいと思います」という感想がありました。
　12月26日（水）は子ども編を実施し、
終了後にはお楽しみ会をしました。マジックをDANHさんから披露してもらい、子どもたちは大喜びでした。
　今後、このワークショップが子どもの身になにか起こった時に役に立つことを期待しています。
　長期間にわたり、お世話になったＣサポートこうべのみなさま、また忙しい中、ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。
（志岐 良子）

■ ■ ■ KFC中国帰国者支援事業 ■ ■ ■

◆兵庫県二世の会の代表をお招きして　12月8日13：30～15：30。ＫＦＣの研修会では中国残留日本人兵庫県二世の会の代表の山崎忠氏をお招きして、今まで経験されたご苦労を中心としたお話を伺いました。
　山崎氏は日本語がまだ十分でないので、お話の大要を中国語で文章にされていて、それをフフデルゲルが通訳するという形をとりました。
　山崎氏は現在尼崎市在住。59歳。92年に来日。20年日本にいられます。お母さんは日本人で昭和初期、日本政府の国策で中国に渡り、その後1945年に思わぬソ連の侵攻に遭われました。その頃、お父さんと結婚、山崎氏と姉を出産。お父さんは1968年に急逝されたのです。
　氏のお話は、中国での生活は決して豊かではなく、1960年の自然災害で食物は極度になくなり、野草、糠なども食べていました。中国人は日本人を憎んでいましたので日本人ということを口外しないようにいわれていましたが、「小日本人」と罵られることが辛かったです。手紙の中身は検閲されるなど監視体制に置かれ、ひっそりと暮らしていました。青年団にも入れず、上級学校は行かれなく、17歳で仕事に就きました。文化大革命後も大変で、品物は少なく、買うのは切符制でした。布票、肉票、豆腐票などもありました。
　1972年に国交回復で希望が見え、49歳の母親は帰れると喜びましたが、すぐには実現しませんでした。帰ってきてからも生活は厳しく、氏は早朝から夜遅くまで人の嫌がる仕事をしましたが、それも阪神大震災でなくなり、以後転々と仕事をかえています。手を挙げて物を乞うような生活はしたくないと働くことに意欲的です。
　今、氏は二世の会の代表として中国で20年、日本で20年も仕事をしてきても年金のない現状を何とかしようと努めていられます。一世は日本語もわかり、通訳ができる人もいますが年を取り、二世はなかなか日本語が上達しなく、三世は日本で生まれ、日本語はできるが中国語はだめという家庭内のコミュニケーションの問題もあります。
　最後の氏の言葉「勉強がしたい時に学校がなかった」というのを悲しく聞きました。続いて今の生活については「苦しい時には楽しいことを夢見る。例えばまずお正月が来るのを楽しみにして働く。次は誕生日を待つというように身近なものを楽しみの目標にして生きている」ということだそうです。参考にしたい素晴らしいほのぼのとした結びの言葉と受け取りました。（ニュース係　気賀 倭文子）

◆帰国者忘年会
　12月18日(火)中国帰国者達の忘年会がグループホームハナの１階を借りて行われました。彼ら

は火曜日の午後集まって太極拳をしたり、中国の民族舞踊の秧踊りを練習している人達です。参加者は50人ぐらいと聞いていましたが、実際は60～70人ぐらいいたのではなかったでしょうか。
　午前９時過ぎには餃子作りが始まりました。中へ入れる具を刻む人。餃子の皮は２０枚入りの市販の袋を買う日本人とは違って手作りです。団子状の粉をこねる人、それを一つずつの大きさにちぎる人、小さいすりこぎで丸くのばす人、中身を入れて形を作る人、分担作業です。彼らは中国では何かあると家族だけではなく、知人や近所の人が集まって餃子を作るらしく早業です。あっという間に机のボール紙の台紙の上に餃子が所狭しと並びました。
　一方、男性の数は多くはありませんが、女性の働きを気にしながら片隅で将棋をしたり、カラオケで活気づけの歌声を聞かせてくれたり、机を片づけたり、湯を沸かすのを手伝う人もいました。
　１２時過ぎにはKFCの支援者の堀田さんの乾杯で食事開始。餃子が主ですが、キャベツや人参などの生野菜の酢和えもありました。次から次へと熱々の餃子が出来上がり、中の肉汁は小龍包のようでした。先の堀田さんがシルバーカレッジで一緒に国際交流を勉強している女性２人と手品をしてくださいました。しっかり見ていましたが、種は見抜けませんでした。各テーブルで大声の会話、笑い声が響いていました。
　参加者達の日本での生活は心身ともに大変だなと思いますが、今日のひとときが気晴らしとなり、明日からの生活の活力になってほしいなと思いました。２時近くになって彼らは満ち足りた笑顔で暖まった心と体を厚い上着で包み、三々立々とまだ話しながら帰途につきました。
（ニュース係　気賀 倭文子）

■■■ ハナの会■■■

◆初めての遠足

　去る12月13日、グループホームハナ、初めての遠足となる「花鳥園」へ行ってまいりました。
メンバーは二階から中岡さん、寺田さん、小野さん、金光さん、山口さん、米田さん、矢野さん、志喜屋さん、それに三階の井丸さん、許さん、何さんの１１人にハナのスタッフ7名にて、花鳥園へと向かいました。
この日は気候も穏やかで天気も安定しており、まさに絶好の遠足日和となりました。
皆さん到着するなり、出迎えてくれたフクロウ達にまず興味津々、皆さん立ち止まってフクロウに見入っていました。
続いて大きい広間にて集合写真を一枚、皆さん素敵な笑顔でしたよ～！！
その後は各自班毎に行動しましたが、皆さんペンギンやフクロウ等の様々な鳥たちや、池に泳ぐ魚たち、色とりどりの植物、花等、普段目にすることの出来ないカラフルで様々な動植物に興味津々な様子で見入っておられました。
特に女性の方々は、大きな広間のテラスの上から垂れ下がった色とりどりの花たちを目に、「綺麗やなぁ」、「ここは天国やぁ」、「こんな綺麗なところ初めて来た」と言われ、皆さんうっとりされながら和まれておられました。
昼食時は二階や三階の方たちが、同じテーブルで談笑されながら、賑やかに昼食をとられました。
その後は一同バードショーの会場へ、バードショーでは最前列の席にて鑑賞。
客席を縦横無尽に飛び回る鳥たちに、大興奮され大満足の内にショーは終了し、一同帰路につきました。
帰ってからも「連れて行ってくれてありがとう」、「楽しかった」と大満足な様子。
本日は遠足に参加された皆さんやスタッフの皆さん、本当にお疲れ様でした。(金 成 漢)

◆中国音楽と中国茶を楽しむ会

11月18日（日）、グループホームハナで「中国音楽と中国茶を楽しむ会」が開かれました。３階に入居されている方のお嬢様が所属するグループの皆さんが、中国伝統楽器の演奏を披露して下さった後、中国のお茶を入れて下さいました。

中国の伝統衣装を着た皆さんが、二胡（胡弓）、中国琵琶などの美しい楽器を手に集まると、生活の場であるリビングが、普段と全く違う空間に変わりました。まず、中国では結婚式などで演奏されるというおめでたい曲「喜洋洋」でにぎやかに始まり、続いてしっとりとした「彩雲追月」、日本の沖縄の歌「涙そうそう」、にぎやかなお祭りの曲「金蛇狂舞」が演奏されました。郷愁を誘う異国情緒あふれる音色に、皆さんうっとりと聞き入りました。最後に、おなじみの「故郷（ふるさと）」が演奏されると、一緒に声を合わせて歌いました。これまで送ってこられた人生や趣味、年齢や性格が様々な入居者の皆さんですが、同じ曲を聞いて涙を浮かべ、同じ曲を聞いて一緒に歌っておられました。歌や音楽は、入居者の方にとって、とても大切な共通の楽しみであると実感しました。

最後に、伝統的な作法で入れた、本格的な中国茶を頂きました。日本茶とは違う、独特の作法と豊かな香りをゆっくりと楽しんで、なごやかな時間を過ごしました。普段は階が違って顔を合わせることが少ない方どうしも、楽しそうに言葉を交わしておられました。　（森下 紀子）

■■■ 今後の予定■■■

■日本語ボランティア講座

1月19日（土）～2月23日(土）の毎週土曜日

全６回　14:00～16:30

於　神戸国際コミュニティセンター(KICC)

■お弁当ミーティング

1月30日(水)12:15～　　於　KFC事務所

■就学前の子どもの「こうべプレスクール」

1月12日(土）～3月2日（土）

於　KFC事務所